



東中学校だより(7) 令和8年1月8日

# 麓あかくそびえて建てり

校歌の一節より

佐久市立東中学校 〒385-0007 佐久市新子田 1396-1 Tel.67-2392 文責:傳田史和(教頭)



## 3学期始業式<校長講話>

「行く一月、逃げる二月、去る三月」と言うように四月までのこの三か月はまたたく間に過ぎ去ってしまうことでしょう。47日と一番短いですが、“根をはる” 三学期にしましょう。

2026年(令和8年)がスタートしました。そして、東中学校も今日から3学期が、スタートしました。皆さん、よい年末年始休業、そしてよい、お正月を過ごせましたか? 新たな決意のもと、「目標」をたて、すでにそのための「計画」を立て、スタートしている人も少なくないのではないかと思います。

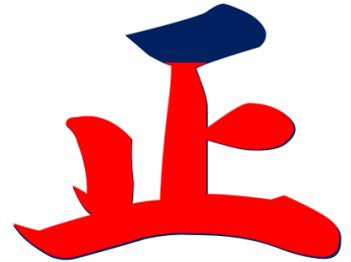
お正月の正の字ですが、この漢字の部首は何か知っていますか?

『正』の部首は、『止』です。

「正」は、もともと「一」の線(城などの境界線)の上に、足を「止める」を合わせた文字です。

「一」には「まっすぐ」という意味もあり、「止める」という字には、“留まる”という意味だけでなく、「そこまで進むこと」の意味があるそうです。

即ち、『正』というは、「目的地にまっすぐ向かう」あるいは、「とどまるべき所にとどまる」ことから、あるべき所に定まる。転じて、「正しい」という意味が生じているそうです。



今、皆さんは、「年頭の思い」をもち、新しい年の「目標」をたて、その目的地に向かってまっすぐ突き進もうとしていると思います。ぜひ、その思いを大切によりスタートをきってください。

そのことに、関わって、イチロー選手について、話をしたいと思います。

昨年、イチロー選手が、全米でも殿堂入りし、野球を通しての深い哲学、敬意と感謝、そしてジョークを交えたユーモアにあふれる感動のスピーチが行われました。その中で、「目標」や「夢」、「目的地(ゴール)」についてこんなことが語られています。

「小さなことをコンスタントにやれば、達成できることに限界はありません。」

準備に対する信念を貫けば、自分自身さえも、疑念に感じたことに打ち勝つことができると思いました。

また、スピーチでこんなことを話しています。

「子どもの頃、私の夢はプロ野球選手になることでした。小学校のとき、夢についても書きました。もし、今、あの作文を書きなおせるとしたら、私は『夢』ではなく、『ゴール』という言葉を使うでしょう。・・・『夢』は楽しいものですが、『ゴール』は難しく、チャレンジングです。」

本気でやりたいことがあるなら、やりたいことをやるだけでは不十分で、そのために何が必要かを考えなければなりません。夢を目標にするためには、何が大切かを素直に考える必要があるのです。

野球を通して培った、プロ意識のある言葉だと感じました。そして、「夢」はその場所に近づくと、きっと「目標」あるいは、目的地(ゴール)に変わっていくものなのでしょう。

目的地に進むために、「何が必要か」「何が大切か」を多面的に考えて、具体的な準備をしていきましょう!

それでも、なかなか前に進むことが難しいこともあるかもしれません。その

時は、そこに立ち止まって、原点に帰ることも必要かもしれません。

相田みつをさんは、正月の『正』の字について、「一」を次のように捉えています。

「正」という字はね「一に止まる」「一を守る」。

じゃあ「一」とは何でしょう?

「一」とは原点、「一」とは自分、「一」とはこの私・・・。

自分が自分の原点に立ち返る月、それが正月。

つまり、自分が他との比較でなく、損得ではなく、人間本来の自分を見つめる月が、正月なのです。と

3学期は47日という短い学期ですが、本年度のまとめをするとともに、次のステージの準備をする大切な学期となります。良いスタートを切り、午年(うまどし)にふさわしく力強く突き進んでください!

